

OMU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OMU students



プロフィール (Profile)

氏名	西山 碧一
所属	工学域 機械系学類
学年	B3
留学先	アメリカ エンブリーリドル航空大学
留学期間	2023/2/19~2023/2/27

留学レポート Study Abroad Report

[留学の経緯]

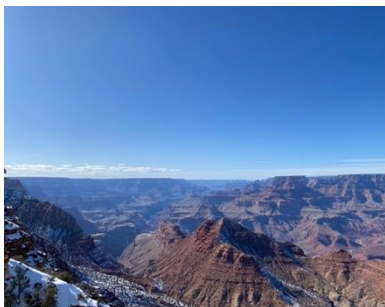
私は、現在航空宇宙工学を専門としていますが将来はエアラインのパイロットになりたいと考えています。そこで今回のエンブリーリドル航空大学 Winter School の案内を見て、アメリカのエアラインパイロットの4割を排出しているいわゆるエリート校に行き、現地の設備や訓練の様子を見てみたい、また教官やパイロット訓練生と話をし、パイロットになる上で何が必要で、どのような心構えが大切なのか知りたいと考え今回のプログラムに応募しました。

[現地の気候]

プログラム中は、主にキャンパスがあるアリゾナ州のプレスコットという町に滞在していました。晴れていたら最高気温が10度は超えるのですが、滞在中は運が悪く寒気団が入ってきて、最高気温が1度の日もありました。標高が1600メートルと高く、寒暖差が激しいですが様々な気象を味わえると逆に楽しんでいました。とにかく乾燥はすごいので、リップクリームと保湿液は持っていった方がいいです！

[Field Trip]

大学での授業の他に、アリゾナでの自然を体験するという事でグランドキャニオンとセドナに行ってきました。どちらも雄大で美しい眺めが無限に広がっており、これだけでもアリゾナに来た甲斐があったなと思わせるほどでした。最終日には空港があるフェニックスという町で観光もしました。アメリカでの最後の夕食はまさかのお寿司でしたが、とても美味しく日本のものと比べても遜色ないと感じました。



グランドキャニオン



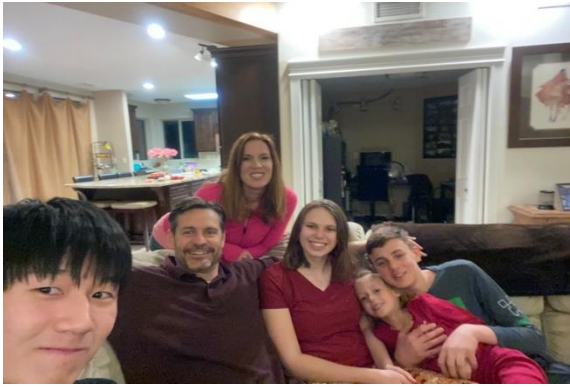
セドナ



アメリカのお寿司

[現地での交流]

現地ではホストファミリーのお家で3泊、ホテルで4泊しました。ホストファミリーは気づ知らずの僕に対してとても温かく接してくれて本当に嬉しく幸せでした。ホームステイ先では小さいお子さんもいたので、一緒にジェンガなどゲームをしてとても楽しく過ごすことができました。およそ3日間と一緒に過ごす時間は本当に短かったですがまたこのお家に戻ってきたい、そう思わせてくれるほど彼らのおもてなしは素晴らしくとてもいい思い出ができました。大学では、現地の学生がバディとして付き添ってくれました。去年の夏に大阪公立大に来た子がほとんどで、来日した時の出来事を始め、好きな女の子のタイプや日本とアメリカの文化の違いなど、本当に話題が尽きませんでした。バディの子達はとても親切で授業が終わった後はレストランに連れていってくれたりボウリングなどしたりしました。今年の夏にまた大阪公立大に来る子もいるみたいなので、また会えるのが楽しみですし今度は私が色々なところに連れて行ってあげたいです。



ホストファミリーとの写真



バディとの写真

[大学でのプログラム]

今回のプログラムはアリゾナで自身が体験したことを 360 度カメラで撮影した映像を用いて表現するというメインテーマをもとに進められました。このカメラを用いて先ほど述べたグランドキャニオンやセドナなどの美しい自然を始め、授業の風景など様々な映像を撮影しました。これら全てを限られた時間内で 1 つの映像に詰め込むというのはとても大変でしたがバディの協力のもと、とても良い映像を作ることができました。こちらの URL も貼っておくのでよければ見てください。<https://youtu.be/bmVo5fu4h80>
この映像作成の他にも、キャンパスツアーで現地の風洞実験やプラネタリウムを見せてもらうなど最先端の設備を体験させてもらった他に、フライトシュミレータとオリエンテーションフライトなど現地のパイロット訓練生がどのようなことを学んでいるかなどを見学させていただきました。オリエンテーションフライトというのは、実際の小型機に教官と一緒に乗せてもらい、コックピットからの空の景色を体験するというものです。僕は実際に操縦桿も触らせてもらい本当に楽しかったですし、勉強になりました。



フライトシュミレータの様子



コックピットから見た景色

[今回のプログラムを通して得たこと]

先述した通り、今回のプログラムに参加した理由はパイロットになる上で何が必要なのか、どのような心構えが大切なのかを見つけるためでした。そこで、現地のパイロット訓練生や教官に「パイロットになる上で 1 番大切なことは何だと思いますか」という質問をさせていただきました。すると彼らはある共通のキーワードを答えてくれました。それは「学び続ける」ということです。パイロットになることがゴールではなく、その先で天候や自身が操縦する機体などについて学び続けていれば、結果としてフライト中の事故を防ぐことになり自身や乗客に守ることができると言っていました。僕はこれを聞いて本当にその通りだと思ったし、これからもそうあり続けようと思いました。

[最後に]

今回のプログラムを経て自身が求めていた心構え以外にも、大切な友人やホストファミリーなど多くのことを得ることができました。オリエンテーションフライト時の機体から見た空の景色は一生忘れることはないだろうし、フライトシュミレータも現地に行かなければ体験できなかった貴重なものだったと思います。今回得たことを糧にしてこれからも精進して行こうと思います。そこで、もしこのレポートを読んでいる人の中で、海外で何かを学びたいと少しでも考えている方がいればぜひ挑戦することをお勧めします。費用、言語の壁などが原因で、なかなか一歩踏み出すことができない方もいると思います。けれども、現地で経験できることはお金で買えないことも多いと思いますし、言葉で通じることができなくてもあなたが本気で取り組もうとすれば現地の人は絶対に協力してくれると思います。ぜひ普段とは違う環境でたくさんのことを体験することをお勧めします。最後になりますが今回のプログラムを企画してくださった大学の皆様、悪天候の中スケジュールの調整などをしてくださった現地の教員の皆様、引率をしてくださった先生、見ず知らずの僕を家族の一員として受け入れてくださったホストファミリーなど、今回のプログラムに関わってくださった全ての人たちに感謝を申し上げます。本当にありがとうございました！